

C-37 軽装帯と名古屋の帯圧について

大阪女学園短大 ○川上公代 増田依子

目的 和服を着用した場合、帯による胸部圧迫感は、着用者から感じられる経験することである。帯圧に関しては、従来から多くの研究がなされてきているが、今回われわれは軽装帯と名古屋帯の着用実験を行い、これらの帯圧を数値的に比較検討し、軽装帯のあり方を探究する目的で本研究をおこなった。

方法 年齢を同じくする被検者(女子学生)2名が、一定の巾着を着用し、軽装帯、名古屋帯をしめる。静ひずみ指示計にて帯圧を測定した。測定部位は、前部、側部、背部。測定動作は、正常姿勢、前屈姿勢。測定体位は、立脚位、椅座位、正座位とした。それぞれについて帯圧を15回測定し、その平均値を求めた。

結果 全般的に名古屋帯の帯圧が軽装帯のそれより大であった。衣服圧の生理学的許容値は、 $40\text{g/cm}^2$ とされているが、それ以上の値は名古屋帯にのみみられる。軽装帯には見られなかった。